

## 2019年度 公益財団法人信託資本財団 事業報告書

### I 基本方針

・あらゆる手段を通じて社会事業家の育成を行い、これによってより強力に社会課題の解決をはかっていく。

・社会事業家同士、社会事業者と受益者・支援者間の関係性を育み、社会事業家が活躍しやすい土壌づくり、社会課題が解決されやすいしくみづくりを行っていく。

・社会課題の対症療法的な解決でなく、根本的な解決に欠かせないとして、当財団が設立目的に掲げている信託資本にもとづく互酬性、すなわち知恵知見のような無形資産の活用もともなう、相互扶助ネットワークづくりを進めていく。

### II 事業内容

#### 1 融資事業（公益目的事業1）

社会事業家を発掘、育成していくための無利子・無担保・無保証融資事業。

融資応募段階にある事業家の相談に積極的に応じることにより、結果における融資可否に関わらず、社会事業家の育成促進を目指した。

##### 1-1 独自融資

###### ■実績

2019 年度末時点

累計融資実施件数： 44 件

累計融資実施団体数：36 団体

累計融資実績額： 106,570,000 円

##### a 通常融資

###### 【第21期募集】

- ・受付期間：2019年1月15日～3月15日
- ・応募件数： 3 件
- ・融資対象者：0 件

###### 【第22期募集】

- ・受付期間： 2019年8月1日～9月6日
- ・応募件数： 3 件
- ・融資対象者： Biba

代表者名： 羽根田将宏

所在地： 宮城県本吉郡南三陸町志津川字南町 207-2

融資額： 3,000,000 円

返済期間： 24 ヶ月

事業内容： 東日本大震災で大きな被害を受け、復興を進めるも、人口流出に歯止めがかからない南三陸町で、建屋的にも使用できる地元材を

使用した軽車両を開発・製造することで、地元材の活用、地元木工技術の継承、軽車両を使用した活動の促進による地域活性化、若者の仕事づくり、地元内外の交流の促進を目指した挑戦的な事業として、応援が決定した。

#### b つなぎ融資

国または地方公共団体ないしそれに準じる組織から直接補助金、助成金等の交付を受けるまでの資金のつなぎを目的とする融資

##### 【募集】 随時

- ・応募件数： 1 件
- ・融資対象者： 一般社団法人みずとわ  
代表者名： 中井優紀  
所在地： 大阪府茨木市千提寺 380 番地  
融資額： 1,000,000 円  
返済期間： 助成金支払い時  
事業内容： 都市から移住し、独活の伝統農法を受け継ぎ高級料亭にまで卸すようになったメンバーが、地元活性のために、場としての古民家改装やその活用のための会員募集、自然エネルギーの活用を進めている事業。すぐに応援者を集めるなど、メンバーの関係性構築力や農業を軌道に乗せた実践力が高く評価された。

#### 1-2 金融機関との協働融資

独自融資枠では事業発展資金手当が不足する成長期事業向け融資の位置づけ。

当財団が、第 1 次審査として、書類審査・本社訪問・面談を実施する。通過した事業者に対し、京都信用金庫が第 2 次審査を行う。

融資が決定した事業者は、京都信用金庫に利子を支払うが、当財団が利子相当額を事業者に助成することによって、当該事業者は、結果的に無利子で融資を受けることができる仕組みである。

##### 【募集】 随時

- ・応募件数： 3 件
- ・融資対象者： TERA Energy 株式会社  
代表者名： 竹本了悟  
所在地： 京都市下京区万寿寺町中之町 88  
契約時期： 2019 年 1 月  
融資額： 20,000,000 円  
返済期間： 60 ヶ月  
事業内容： 京都西本願寺の僧侶が中心となり、地域にある寺を社会関係性ネットワークの拠点にしようとする活動である。  
その手段としてメンバーが選んだのは、自然エネルギー事業である。廃寺が増えている昨今ではあるが、宗派を問わず社会貢献に取り組む寺院を経済的にサポートする仕組みをつくることを目指している。既に、自死者を減らす活動を都道府県を超えて NPO として続けてきたメンバーがコアメンバーであるため、ネットワーク力と実践力が高く評価された。

#### 1-3 事業相談会の実施

社会事業家の経営上の悩みや社会における事業障壁の解決を支援するため、融資・共感助成実施中の事業者、応募検討者を対象とした代表理事による事業相談会を以下の通り開催した。

- ・日程： 2019 年 2 月 17 日(土)・7 月 27 日(土)
- ・申込件数： 各 6 件 (計 12 件)
- ・事業相談会経由の融資応募件数： 3 件

## 2 知恵・知見の蓄積事業 (公益目的事業 2)

### 2-1 良質な知恵・知見および人的ネットワークの蓄積

本年度も、共感融資・助成を開始する際に、すべての代表者と信頼責任者 (事業の支援者計 3 名) から、社会課題解決に関する知恵知見提供を得てデータとして蓄積した。

### 2-2 ウェブシステムの構築

蓄積した知恵・知見をベースに、社会的事業や課題に関する解決策を求める事業家と、これに対応する知恵・知見・技術を持つ事業家をウェブ上で結び付けるシステム構築に向け、2014 年度より試験運用を開始しているシステムは、本年度刷新し、デジタル上の価値交換システム構築に入った。

### 2-3 オフラインネットワークの活性化

社会課題解決に向け、助成金等に過度に依存せず相互扶助し合う実質的な社会事業家や支援者のネットワーク拡大に向けたオフラインの場として、様々な主催企画を開催。

特に、連続開催した「シンライノテーブル」は、社会事業家同士が協力関係を育むため、共感融資・共感助成代表者ならびに事業塾「A-KIND 塾」卒塾生や行政職員向け塾「未来設計実践塾」が、取り組んでいる事業内容を共有し、事業の悩みを話し合い、互いに助け合うセーフティネットを醸成する場とした。

こうしたセーフティネットを今後全国各地で社会課題解決に向けた原動力にしていきたいと考えている。

## ■実績

### 「A-KIND 塾・未来設計実践塾 OB・OG 会」

開催日： 2019 年 1~12 月 毎月 1 回

開催地： 京都市風伝館や各地にある卒塾生現場

参加人数： 各回 5~10 名程度

内 容： 卒塾生同士の情報交換、相互扶助関係を目指しの各々の現場を訪問しあつた。

### 「信頼ギャザリング@仙台」

開催日： 2019 年 6 月

開催地： 宮城県仙台市 東北大学

参加人数： 約 30 名

内 容： 東北に居る関係者を中心に開催。社会関係性資本についての講義を実施。共感融資・助成先の活動紹介、各々が抱える社会課題解決に向けた障壁につき、関係性を醸成する形をとりながら障壁の解消を検討。

### 「信頼ギャザリング@東京」

開催日： 2018 年 9 月

開催地： 東京都 渋谷区 コモンズラボ

参加人数： 約 60 名

内 容： 関東を中心に活動する共感融資・助成先の活動紹介、バックキャスティング思考についての講義を実施。各々が抱える社会課題解決に向けた障壁に関し、関

係性を醸成する形をとりながら解消を検討しあった。

「HOSP 月間」

期 間： 2019 年 11～12 月

開催地： 京都市

参加団体： 20 団体

内 容： 社会課題に向き合っている京都市の各団体に呼びかけ、同時期に各々の主催企画を開催し、広く社会課題を認知してもらい、相互扶助の重要性を理解していただく月間として設定。

「信頼デイ」

開催日： 2019 年 11 月

開催地： 京都市 ハートピア京都

参加人数： 約 100 名

内 容： 全国で活動をする共感融資・助成先の代表者ならびに信頼責任者、卒業生、寄付者が集い、これからの社会に関する重要なテーマについて学び、解決への道筋に向き合う例年の会を本年度も開催。

### 3 助成事業（公益目的事業 3）

#### 3-1 共感助成事業

「事業指定助成」という形態の「共感助成」事業。

随時申請を受け審査の上、助成先を決定し、これを「共感助成先」と称している。

寄付者は、共感助成先の中から支援したい事業者を指定して寄付をし、当法人は、その寄付金をもとに助成を行う。当法人は、共感助成先の学びや相互扶助ネットワークづくりの場の提供や、特に広報面での支援を行っている。

#### ■実績

今期実施団体数： 21 団体

今期助成額： 161,700,000 円

#### 【共感助成先】

- ・ 特定非営利活動法人チームレスキュー

代表者名： 小野 聡美

所在地： 愛知県瀬戸市市場町 13 番地

事業内容： 東日本大震災直後から宮城県七ヶ浜町を拠点に、復興支援活動をしていたが、その後、被災地各所に活動範囲を広げており、本年度は西日本豪雨被災地支援を実施。

- ・ 特定非営利活動法人ユナイテッド・アース

代表者名： 淵上 智信

所在地： 兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-7-4

事業内容： 市民の共働によって、「心育まれる希望あふれる社会」を実現すべく、海外の貧困地域への自立支援活動や環境保護活動など、様々な社会問題への取り組みを行う。

- ・ 一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

代表者名： 仲西 祐介

所在地 : 京都府京都市北区鞍馬口通西入ル新御霊口町 270  
事業内容 : 日本の古都・京都を舞台に、伝統文化と現代アートの融合を図る国際写真フェスティバルを毎年開催。いまだ評価の遅れている写真芸術の理解に一石を投じるべく、国内外の写真家および写真作品を世界的な視点で選出し、京都市内のギャラリーやカフェなど約 50 カ所にて紹介に努める。社会関係性にとって欠かせない良質な文化を担っている。  
2019 年度 1 ヶ月間の来場者数は 17 万人。

・一般社団法人構想日本

代表者名 : 加藤 秀樹  
所在地 : 東京都千代田区平河町 2-9-2 エスパリエ平河町 3F  
事業内容 : 政策研究で終わりではなく、議員、行政職員、企業経営者、研究者など、様々な世界で活動している人たちと連携して、その経験や問題意識を政策にして、知恵を結集して政策を実現する活動を行う。

・一般財団法人教育支援グローバル基金

代表者名 : 藤沢 久美  
所在地 : 東京都渋谷区神南 1-5-7 ETIC.内  
事業内容 : 東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長することを支援することを目的とした事業として、包括的なリーダーシップ支援事業を実施。

・一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター

代表者名 : 山本 隆  
所在地 : 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1  
事業内容 : 国内外で起こる災害に対し、スタッフ・ボランティアを現場へ派遣し、素早くかつ大規模に被災者支援を行う。活動内容は、支援物資の配布、炊き出し、泥かきなどの清掃作業、避難所・仮設住宅居住者へのサポートなど、行政による公助では十分な対応が追いつかないものが中心。

・特定非営利活動法人キッズドア

代表者名 : 渡辺 由美子  
所在地 : 東京都中央区新川 2-1-11 八重洲パークビル 7階  
事業内容 : 親の収入によって教育機会を奪われてしまいがちな子ども達へ無料の学習支援を中心に、すべての子どもが夢と希望のもてる社会の実現に向け「子どもの貧困」および「教育格差」を解決するための活動を行う。

・一般社団法人 Japan Treasure Summit

代表者名 : 小宮山 宏  
所在地 : 東京都渋谷区南平台町 6-4-201  
事業内容 : 学術芸術のすばらしさ伝え、寄附により学術芸術を支える文化の醸成について考える機会を提供するサロン活動を行う。また、人材育成として学術芸術活動のためのファンドレイザー育成プログラムを展開。

・一般社団法人グリーンピース・ジャパン

代表者名 : 細川 弘明  
所在地 : 東京都新宿区西新宿 81-13-11 NF ビル 2F  
事業内容 : 地球規模の環境破壊を止めることを目的に、環境破壊の現場調査、科学的な分析結果に基づくレポートや代替案の作成、メディア等への情報提供、

国連「総合協議資格」を利用した国際会議での働きかけや交渉過程の監視、政府・企業への代替案の提案・要請を行う。

- ・一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト  
代表者名： 星川 淳  
所在地： 東京都文京区湯島 2-9-10-2F  
事業内容： 「自然環境と人間生活の調和を目的とした市民の主体的行動を支援する」という事業目的に沿って、(1)ネオニコチノイド系（浸透性）農薬のリスク低減、(2)脱原発・エネルギーシフト、(3)東アジア環境交流の3分野で公募助成および企画助成による問題解決型の支援と、市民活動促進のための環境醸成および触媒作用を図る自主企画を実施。
- ・特定非営利活動法人離島経済新聞社  
代表者名： 大久保 昌宏  
所在地： 東京都世田谷区三軒茶屋 2-49-6  
事業内容： 日本で「本土」と定められる5島以外の約400島の「有人離島」の情報を集め、伝え、支える活動を行っている。
- ・一般社団法人こいのぼり  
代表者名： 菅沼 正司  
所在地： 愛知県豊田市渋谷町 1-1-16  
事業内容： 有効な治療法が存在しない難病「ミトコンドリア病」の社会的創薬プロジェクトである、「7 SEAS PROJECT」を支援する事業を展開。
- ・Bazaar café  
代表者名： マーサ メンセンディーク  
所在地： 京都府京都市上京区岡松町 258  
事業内容： 「誰もがありのままの姿で受け入れられ、多様な価値観を互いに尊重すること」を理念とし、それに共感する仲間と居場所「バザール・カフェ」を運営。生きることに困難を抱えている人たちの雇用の場、居場所になっており、カフェを訪れる一般客が意識しない形での支援者になる事業を展開。
- ・特定非営利活動法人二求の塾  
代表者名： 佐藤 壮  
所在地： 兵庫県神戸市東灘区御影 2-5-10  
事業内容： 不登校・ひきこもりを克服したスタッフが立ち上げ、同じく現代社会に息苦しさを感じている若者に対して、心身の癒しの場を提供し、学習支援やカウンセリングを通して社会復帰のサポートを行っている。
- ・特定非営利活動法人健康サロン  
代表者名： 水内 義明  
所在地： 広島市安佐南区東野一丁目 20 番 62 号  
事業内容： 今ある高度な医療人材を活用し、地域の予防医学に注力することで健康寿命の延伸を支援。
- ・公益社団法人こどもみらい研究所  
代表者名： 太田 倫子  
所在地： 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 10 番 3 号 仙台キャピタルタワー3階

事業内容： 2011年に発生した東日本大震災後の社会の混乱のなか「自分たちもなにかの役に立ちたい！」と考えた子どもたちが、震災のこと、復興のこと、頑張っていること、世界中から寄せられた支援に感謝していることなどを伝えるために、2012年3月11日から、子どもたちの取材活動による新聞を作成。

・特定非営利活動法人テイラー・アンダーソン記念基金

代表者名： 藤崎一郎

所在地： 東京都港区高輪1丁目5番7号クレール高輪701

事業内容： 東日本大震災で亡くなった米国人の英語助手、テイラー・アンダーソンの「日米のかけ橋になりたい」という遺志を実現するため、テイラーの父と当時の駐米大使が共同代表となり、テイラーが教えていた宮城県石巻市を中心に子どもたちを支援する活動を続け、高校生が米国でホームステイをするなど日米の交流が深まる活動に注力。

・一般社団法人東大ウォリアーズ

代表者名： 好本一郎

所在地： 東京都文京区本郷7-3-1本郷キャンパス第2食堂2階

事業内容： アメリカンフットボールを通して、青年の健全な心身の育成を支援し、良質な関係性を育んでいる。

・ともいき京都

代表者名： 田村 恵子

所在地： 京都府京都市下京区万屋町342ガーデンコート河原町907

緩和ケアパートナーズ事務局内

事業内容： がんを体験した人、その家族、親しい人々、市民を対象として月2回、「生きることへ向き合う語り合い」「生き抜く力を育むワーク」を実施。これにより、がん体験者と市民が支え合うコミュニティづくりを行う。

### 3-2 休眠預金事業

休眠預金活用のための2019年度資金分配団体近畿圏草の根事業、助成額1億円に採択された。

本年度は資金分配団体としての研修や、共に伴走支援を行う近畿圏各メンバーとの複数回にわたる打合せが中心となった。

単独で事業を行う団体が多い中、近畿圏は元より、将来的には日本各地のネットワーク力や無利子融資の経験を活かした貢献をしていきたいと考えている。

### 4 社会デザイン事業（収益事業1）

様々な講演やシンポジウムにて代表理事が登壇し、良質な社会関係性の深まる社会について広報を行った。

### 5 社会事業家育成事業（収益事業2）

社会事業家育成や、社会事業をサポートする行政職員育成を目的とした塾を本年度も引き続き開講し、着実に育成を続けている。

#### 5-1 A-KIND 塾

熊野英介財団代表理事を塾長とする、社会事業家育成塾。

事業をしているあるいは起業しようとしている者を対象に、「KIND=親切な、優しい、

思いやりのある、心からの」という目には見えない、耳には聞こえない価値を形にし、売り手よし・買い手よし・世間よし・未来よしという「四方よし」の持続可能な社会事業を行うことで、事業の生存確率をあげ、社会事業を持続可能にしながら社会に貢献していくことについて学ぶ塾である。

社会事業に限らぬビジネスの原点である「人の心を掴み」拡大再生産を行うことを、事業経験を重ねてきた講師から、また仲間である事業家から学んでいく。

当塾生によるコミュニティは本年度で約 100 名となり、毎月卒塾生による自主的な対話・勉強会が開催され、相互扶助関係性構築に向けて動いている。

#### ■第 5 期開講実績

- ・開催日：2019 年 4～12 月
- ・受講者数： 20 名

### 5-2 未来設計実践塾

行政職員を対象とした塾。

様々な社会課題を抱える日本の各地域において、市民の当事者意識を育み、市民が社会的事業を通して社会課題の解決にとりくみやすい環境を整備するための政策形成を学び合う場として開講した。

講師はや行政の仕事の進め方ばかりではなく、民の業務の進め方や会計制度についても学んでいく。

卒塾生は、民のプレーヤーである A-KIND 塾生との交流を重ねており、身近に接し合うことにより、助成をする側、される側といった旧態然とした関係性ではなく、官民の垣根を超えた協働をしやすい関係性の醸成が進んでいる。

#### ■第 3 期開講実績

- ・開催日： 2019 年 6 月～12 月
- ・受講者数： 10 名

## Ⅲ. 管理・研究部門

### 1 業務執行体制

#### 1-1 業務委託体制の拡充

各分野における専門家を業務委託スタッフとして採用したことにより、事業の幅が広がった。

#### 1-2 インターン生の受入

これまでの流れ同様、職員同様インターン生から職員になる者が続いている。

本年度も、社会事業家やその支援者になっていくような人材の育成を目的として、関西圏の大学から最大 4 名のインターン生の受け入れを行い、1 名が 2020 年度正職員として入職することが決まった。

学生時代から社会事業家に接したメンバーは、より強い共感を持って事業家に接していく側面があり、その支援において、及ぼす影響は小さくない。

#### 1-3 コミュニティスペース運営による事業

当法人オフィスが入る建物「風伝館」内の無料貸出コミュニティスペース運営業務を引き続き受託することにより、オフィス賃料を抑えている。



また、当コミュニティスペースの活用が社会関係性の醸成につながっている。

## 2 研究会の発足

地域デジタル通貨の発想も取り入れた「持続可能なコミュニティ経済の創造」のための研究を開始。

来年度フィールドワークを行っていく予定。

メンバー：

齊藤賢爾氏	早稲田大学大学院経営管理研究科教授	ブロックチェーン研究者
小川さやか氏	立命館大学大学院先端総合研究科教授	文化人類学者
高野雅晴氏	株式会社ビットメディア代表取締役	デジタル地域通貨専門家

## 3 広報体制

メールマガジン（月 1 回発行）および SNS（主に Facebook）にて、当法人および共感融資・助成先の活動に関する定期的な発信を行い、引き続き賛同者社会事業家支援者の拡大をはかった。

以上